

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4472800343		
法人名	社会福祉法人 玖珠会		
事業所名	グループホーム 笑みの里②		
所在地	大分県玖珠郡玖珠町大字大隈322番地の2		
自己評価作成日	平成28年1月18日	評価結果市町村受理日	平成28年6月24日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	福祉サービス評価センターおおいた		
所在地	大分県大分市大津町2丁目1番41号		
訪問調査日	平成28年3月18日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

恵まれた自然環境の中で、広々とした施設が特徴。一年を通し季節を感じていただけるよう、季節の行事に力を入れ、毎月1回、地域交流会を行い常に「地域密着」を意識し、地域に溶け込めるよう、近隣住民との交流を行い地域社会とのつながりを大切にしています。利用者さん一人ひとり、尊重した暮らしが出来るように生活歴の把握、思いや意向の把握に努め、生きがいをもって自分らしく自由でのびのびと生活したい...を理念に掲げ常に利用者様を主としたケアに取り組んでいます。家庭的な雰囲気の中で、職員一人一人が入居者様と生活を共にしていることを意識し、ゆっくりと関わりをもつようにし、落ち着いた環境でゆっくりとコミュニケーションをとり、居心地よい温かい生活、安心・安全な生活が送れるよう努めています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

- ・自然が豊かな立地にあり、遠くの山や近くの畑の様子が眺められ季節を楽しめる。建物はゆっくりとした造りで採光や温度に配慮し、居心地の良い生活が送れるよう配慮している。
- ・管理者は理念に基づき、職員と話し合いながら利用者本位のサービスを提供している。
- ・利用者の好む食事を3食ともグループホーム内で手作りし、利用者の状態にあわせて食事が進むように考えている。百歳を超える方も、しっかりと一緒に食卓を囲んでいる。
- ・職員のケアの向上や権利擁護を学んでもらうため、積極的な研修を行なっている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念(事業所が目指す目標)を掲げ、日々の介護をその理念に照らし合わせつつ、管理者・職員が常に情報を共有し、日々の実践を行っている。	理念を目に付くところに掲示し、サービスの質の向上を目指して、管理者と職員が日頃から話し合いを行い、実践している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	毎月一度、地域交流会を開催し、地域の方々との交流会と必要に応じてボランティアの受け入れを行い、地域の方々と触れ合い地域密着型を実践している。	地域交流会を行ない、毎月1回、回覧紙「よっちよくれ」で近所の人に声をかけてグループホームに来てもらっている。医療の講話などにはたくさんの方が来てくれており、ボランティアの受け入れも行っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	ご家族や地域の方々とお交流する場を設けて、認知症の理解や支援方法を実践している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	隔月一回運営推進会議を開催し、利用者の状況報告・施設の問題等を話し合い、参加者の意見をサービスの向上に活かしている。	隔月1回、運営推進会議を行って、事業内容やサービス提供について報告を行ない、意見を貰っている。利用者家族や、行政、地域住民などの参加がある。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市町村担当者にグループホームの状況を広報誌を持参し、また運営推進委員会にも参加して頂き積極的な協力関係を構築している。	市町村担当者と密に連絡を取り、困難事例について相談したり制度を教えてもらっている。「生きがいセミナー」には行政も積極的に参加してくれる。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	研修会等で身体拘束の意味を理解し、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。夜間のみ施錠を行い安全・防犯に徹している。	研修テーマのひとつに必ず身体拘束を組み込み、職員が理解したうえで身体拘束をしないケアに取り組んでいる。施錠は行わず、チャイムと見守りで対応する。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修会・勉強会に積極的に参加し、管理者・職員はヒヤリハットの活用や日々のミーティングにおいて、いわゆるグレーゾーンに属さないケアに注意を払いお行い防止に努めている。		

事業者名:グループホーム笑みの里

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	本人(利用者)の尊厳を保ち、制度への理解を活用するため学習の機会を設けている		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入退去時に、契約書・重要事項説明書を詳しく説明し、利用者や家族等の不安・疑問点を尋ね、十分に話し合い、理解と納得を図っている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご意見箱、アンケート用紙のを設置し、気づきの点があれば遠慮なく意見を頂けるなシステムをもうけている。また運営推進委員会・家族会・サービス向上委員会を設け意見・要望を聞き運営に反映させている。	普段の訪問などで家族の意見を聞き、意見箱やアンケート用紙なども設置している。年に2回行う家族会では、家族だけで話し合ってもらい、上がった意見は全職員で改善に向けて、家族と話し合っている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	時間のある限りミーティングを行い、職員一人一人の意見や提案を聞き反映している、またストレスケアに十分に取り組んでいます。	スタッフの提案や意見はミーティングの際に十分聞くようにし、風通しの良い職場づくりをしている。管理者は職員のストレスケアにも取り組み、個別に話を聞くなどしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	法人には考課表にて個々の努力等を伝える事ができている、また職場ではストレスケアの取り組みを実践し、職員の希望を十分に聞き入れ各自が向上心を持って働ける職場環境を整えている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎月、園内研修会の参加、法人以外での研修会も受講し職員の質の向上に努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	県下及び日田玖珠グループホーム連絡協議会で行われている会議や研修会に参加し、サービスの質の向上に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居時、安心した生活が送れる様に、不安や困難事項を早期に対応し、利用者様のニーズを十分に聞き入れ信頼関係を築ける様に努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	利用を始めるにあたり利用者様・家族の方の意見(困難事項・不安要素)を十分に聞き、ニーズを引出す努力を行っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用者の状況を見極め何が必要か、医療機関・他の専門機関等の意見も参考にし、支援とサービスを取り入れている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者様の個性や生活歴を大切にし、ご自分でできる事は可能な限り本人にして頂き、出来ない事はサポートし共に寄り添って暮らして行ける信頼関係作りに努力している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	利用者が安心して生活出来るよう家族近況を報告を行い、時には家族の協力を得て、ご本人をサポートできる関係を築いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	利用者のこれまでの生活歴を傾聴し、本人の希望に沿って外出支援や友人・知人等の面会を行い馴染みの人や場所が途切れないような関係を続けられるよう支援に努めている。	生活歴をケース記録に書き入れ、職員で共有している。親しい人との関係が途切れないように配慮するとともに、グループホーム内での親しい関係づくりにも力を入れている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様同士の間関係が円滑になる様に職員が見守り、関わり合い支え合える様に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用が終了後でも必要に応じ、相談や支援を行っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者様の希望や思いを傾聴し、意向に添える様に努めている。また困難な場合は家族に支援をお願いして本人本位で検討している。	センター方式のケアプランに書き込み、本人と家族の意向や希望が把握され、職員で共有している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用者さま一人ひとりの生活歴や今までの暮らし方を把握して生活環境を整え安心しその方らしい生活が出来るように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの心身状態を把握し、その度に職員間で情報共有しサービス記録に記入する等して現状把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	心身の状態の観察を行い、小さな変化にも職員間で報告・連絡・相談を行い、チームケアとしてケアカンファレンスを行い、その時々々の現状に応じた介護計画を作成している。	アセスメントを行ない、本人や家族の意向を確認して介護計画を作成している。その状況に応じた計画で、変化があった場合にはすぐに対応できるようにしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別サービス記録に内容の実践・取り組み・気づき等を記入し、職員同志で情報を共有して介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	個別ケアを行うにあたり、一人ひとりに合ったサービスの提供を心がけ、マニュアルに束縛されず柔軟性をもって個々の希望に沿ったサービスの提供に努めている。		

事業者名:グループホーム笑みの里

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の行事参加や馴染の店や場所での触れ合い、その人らしく安全で豊かな暮らし、生きがいを持って頂ける様に努めています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医と関係を築き、受診・定期回診・夜間時の急変時にも対応して頂ける様に医療連携に取り組んでいる。	本人の希望する医療機関への受診が可能だが、現在は母体の医療機関と連携して、訪問診療や夜間の救急医療にも対応できて、安心して医療が受けられてる体制である。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	笑みの里に隣接された併設施設の看護師に常日頃、状態の報告・健康管理・相談・助言等で、個々の利用者が適切な受診・看護を受けられるように対応している		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者の入院時は、安心して治療に専念できるように家族・病院関係者と密に情報交換し、早期に退院できるように常に病院関係者との関係作りに取り組んでいます。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に本人・家族を含めて、重度化や終末期について説明し、重篤時には掛かりつけ医、家族等協議し、方針を共有している	入居時に本人と家族に説明し、重度化した段階で話し合いを行っている。終末期には、家族と協議し、グループホームでできることを説明して方針を共有している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	研修会や勉強会を定期的に行い、急変時の対応・感染症に対する処置等を学び訓練を行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	毎月一回、防災避難訓例を行い、年2回(うち1回は地域の住民・消防署・消防団・警察署等の協力のもと)夜間総合避難訓練を行っている。	毎月グループホーム内での避難訓練を行ない、年2回、法人全体の訓練も行っている。地域住民の参加も多く、備蓄もあって地域の避難場所にもなっている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	介護をしているのではなく、お世話させて頂いているとの精神で一人一人の人格を尊重し、その方の性格等把握し誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応を行っている。	介護はサービス業であることを職員に理解してもらい、入居者の人格の尊重や丁寧な言葉かけ、誇りやプライバシーを損ねないように職員で話し合いを行なっている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者様が気兼ねせず、希望や想いを発言できるよう働き掛け、自己決定が出来るように努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者様、一人ひとりの体調・気分を把握し、その日どのように過ごしたいか本人の希望に沿った支援を心がけている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	個性を大切に、本人の好む服装や身だしなみやおしゃれが出来るように支援している。化粧道具等、必要なものは無くならないように支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	嗜好調査や日常の会話より個々の好みを把握し可能な限り、一緒に食事作りが出来るように、簡単な調理と下ごしらえ・準備・片付けが出来ている。	各ユニットごとに、入居者に食べたい物を聞くなどしてメニューを考え、職員ができる人と一緒に食事づくりを行っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりが食べる量(栄養バランス)・水分量を把握し一日を通じて確保し体調管理に努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	一人ひとりの能力に応じ、一部介助や声かけを行っている、出来ない方は職員が介助する、治療が必要な方は病院受診の支援も行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	自立で排泄出来る方の見守りと介助が必要な方の排泄パターンの把握を行い、個々の能力に応じた排泄援助を行う事で、できるだけ自立に向けた支援を行っています。	自立支援を目標に、個々の排泄パターンを把握して見守りや介助をしている。便秘がちの人には食材を工夫するなど、できるだけ自然な排泄ができるよう支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	個々に応じた便秘予防と対応を行っています。特に食物繊維の多い食べ物や乳製品の提供と水分チェックを行い運動への働きかけや必要に応じ、緩和剤の服用で調整を行っています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	利用者本位で入浴への声掛けや、本人の希望に合わせて入浴支援を行っています。	2日に一回、または3日に一回の入浴が行えるようにし、拒否する人には声かけやタイミングを工夫している。希望があれば毎日でも対応できる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	休息や十分な睡眠がとれる様に、状況に応じた衣類・室温調整を行い安息知って頂ける様に支援しています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の目的・副作用・容量を理解し、症状の変化に気を配り医療連携を基に常に医師との協力をを仰ぎ服薬支援に努めています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	その方に合った趣味支援や、ドライブやショッピング・カラオケ等で気分転換を行っています。得意分野で個々の力を発揮して頂き、感謝の気持ちを伝える事で信頼関係を構築しています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	季節の変化に応じ、天候やその時の利用者の体調を把握し、希望に沿った外出支援を行っています。	事業所は農業を中心とした地域社会の中にあり、近くには店舗などもあって買い物や馴染みの場所に日常的に出かけている。外出行事では、雛めぐり、お花見や神社への参詣などが行われている。週に1回、ボランティアによる催しなどもある。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	職員は利用者の所持金を把握しており、お金の管理の出来る利用者には自分で所持して頂きショッピング等で使用できる様に支援しています。また家族には金銭の利用状況を伝えていきます。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族の方への電話連絡等は本人の希望に応じ、いつでも電話出来るように支援しています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間は利用者や面会に来られた方が不快な思いをさせることなく音量や障害物に配慮し、観葉植物の配置や季節を感じられるような物品の配置を行い居心地よく過ごせる様に努めています。	広い玄関には季節の花が飾られて、訪れた人を豊かな気持ちにさせてくれる。採光や温度などに配慮したホールには、観葉植物や利用者がプランターで育てた花などが置かれ、居心地のいい空間になっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	それぞれの居場所(談話室・食堂・居間)でゆったり過ごせる様に腰掛やテーブルを配置し、自由に居心地よく過ごせる様に努めています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	その方らしく使い慣れた品物を持ち込んで頂き本人が安心できる居室作りに努めています。	使い慣れた家具を置き、温度や湿度に気をつけてゆっくり過ごせる自室となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者の安心・安全に心がけ、日時が分かる様にカレンダーや時計をたくさん配置し自立した生活が出来るように環境作りを行っている。		